



いのちの大切さを考える絵本（幼児～小学生向け）

「みとめあうってすてきたね」9

読み聞かせを楽しみながら いのちの大切さを考えてみませんか？

市内5つの図書館で借りられます。



東村山市立図書館

ぞうのエルマー デビッド・マッキー／ぶんとえ きたむらさとし／やく B L出版

エルマーはいろいろな色がつぎはぎになっている変わりもののぞう。ある日、ぞう色の実の上にごろがって、ぞう色になってみました。みんなと同じ色になったのに、だれもエルマーだと気づきません。

みえるとかみえないとか ヨシタケシンスケ／さく 伊藤亜紗／そうだん アリス館

宇宙飛行士のぼくがおりたったのは、目が3つあるひとの星。目が2つのぼくを「かわいそう」なんていう。これがふつうなのにヘンな感じ。そこから、みえるひととみえないひとの世界ってどうちがうのかなって考えた。

きみはきみだ 斉藤道雄／文・写真 子どもの未来社

九九、漢字、とび箱…。できることもできないこともあるけれど、きみはきみだ。きみもきみの友だちも、世界にたったひとりのとくべつな人なんだ。

こくん 村中李衣／作 石川えりこ／絵 童心社

わたしは、からだをじぶんのおもうようにうごかすのがむずかしい。でも、びょういんでいっぱいれんしゅうしたから、だいじょうぶ。ほこうきがあれば、みんなとあるけるもん。

ムカツやきもちやいた かさいまり／さく 小泉るみ子／え くもん出版

クラスに転校生のあんりちゃんがやってきた。わたしのなかよしのふうこちゃんと楽しそうに話してる。何だかムカツとして2人から逃げるように帰ってきた。このきもち、なんだろう・・・。

へたなんよ ひこ・田中／文 はまのゆか／絵 光村教育図書

「おばあちゃんは みみがとなくて、でんわで きくのが へたなんよ。」「おばあちゃんは おぼえるのも へたなんよ。」だから、いろいろと助けてあげる。へたなことがたくさんあるけれど、そんなおばあちゃんがわたしは大好き。

すずちゃんののうみそ 竹山美奈子／文 三木葉苗／絵 宇野洋太／監修 岩崎書店

すずちゃんは、ねんちょうのゆりぐみさんになっても、おしゃべりができません。スプーンもうまく使えないし、きゅうにないたりわらったり、かみついたり。どうしてかな？

あっくんはたべられない あっくん／作 高橋智／監修 世音社

あっくんはにおいの強いたべものはたべられない。味がまざるのも苦手。発達障害にともなう食べることのつらさを描いたのは、東村山出身のあっくんです。